

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部の学科の設置							
フリガナ設置者	ガッコウホリゾン キョウガクエン 学校法人 行吉学園							
フリガナ大学の名称	コウベンジョウガク 神戸女子大学 (Kobe Women's University)							
大学本部の位置	兵庫県神戸市須磨区東須磨青山2番1号							
大学の目的	世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする有為な女性を育成することを建学の精神とし、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用能力を展開させることを目的とする。							
新設学部等の目的	健康福祉学部健康スポーツ栄養学科：【学科設置】 食を中心として調和の取れた適切な運動、栄養改善と体力の増強など、栄養と運動の両面から健康を追求する人材を養成。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	健康福祉学部 健康スポーツ栄養学科 〔Department of Health, Sports and Nutrition〕 計	年	人	年次人	人	学士 (栄養学)	年月 第 年次 平成21年4月 第1年次	兵庫県神戸市中央区港島中町4丁目7番2号
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年4月、神戸女子大学健康福祉学部健康福祉学科の入学定員を80人削減（160→80：本件にて届出）。 平成21年4月、神戸女子大学健康福祉学部健康スポーツ栄養学科を入学定員を60人で新設（0→60：本件にて届出）。 平成21年4月、神戸女子大学文学部英語英米文学科の入学定員を20人増員（40→60：本件にて届出）。 平成21年4月、神戸女子大学健康福祉学部健康福祉学科を社会福祉学科に名称変更（平成20年6月届出予定）。 平成21年4月、神戸女子短期大学初等教育学科を幼児教育学科に名称変更（平成20年4月届出済）、同時に入学定員を20人増員（80→100：平成20年4月届出済）。 平成21年4月、神戸女子短期大学食物栄養学科の入学定員を40人削減（180→140：平成20年4月届出済）。 							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
	健康福祉学部 健康スポーツ栄養学科	講義	演習	実験・実習	計			
		101 科目	81 科目	25 科目	207 科目	124 単位		

図書館		面積		閲覧座席数		収納可能冊数		
		㎡						
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				
		㎡						
経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書費には電子ジャーナル、データベース・その他の経費(運用コスト等)を含む
		教員1人当り研究費等	175千円	175千円	図書購入費	3,000千円	1,000千円	
	共同研究費等	2,900千円	2,900千円	設備購入費	10,000千円	1,000千円	一千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	1,430千円	1,080千円	1,080千円	1,080千円	一千円	一千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、寄付金、雑収入等					
大学の名称		神戸女子大学						
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
文学部					学士	1.14		兵庫県神戸市須磨区東須磨青山2番1号
日本語日文学科	4	60	—	180	(日本語日文学)	1.13	平成18年	
英語英米文学科	4	40	—	120	(英語英米文学)	1.59	平成18年	
神戸国際教養学科	4	40	—	120	(国際教養学)	0.66	平成18年	
史学科	4	60	—	260	(歴史学)	0.91	昭和44年	
教育学科	4	165	—	660	(教育学)	1.23	昭和44年	
文学科国文学専攻	4	—	—	—	(国文学)	—	昭和44年	
文学科英文学専攻	4	—	—	—	(英文学)	—	昭和44年	
社会福祉学科	4	—	—	—	(社会福祉学)	—	平成8年	
家政学部					学士	1.03		
家政学科	4	80	—	320	(家政学)	0.99	昭和41年	
管理栄養士養成課	4	140	3年次20	600	(栄養学)	1.04	昭和43年	
健康福祉部					学士	0.59		兵庫県神戸市中央区港島中町4丁目
健康福祉学科	4	160	—	480	(社会福祉学)	0.59	平成18年	
大学の名称		神戸女子短期大学						
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
総合生活学科	2	150	—	300	短期大学士(総合生活学)	0.84	平成8年	兵庫県神戸市中央区港島中町4丁目7番2号
食物栄養学科	2	180	—	360	短期大学士(食物栄養学)	1.04	平成8年	
初等教育学科	2	80	—	160	短期大学士(初等教育学)	1.07	昭和30年	
附属施設の概要		該当なし						

別記様式第2号（その2）

教育課程等の概要

（健康福祉学部健康スポーツ栄養学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
語学科目（世界の言語）	初習言語	イタリア語Ⅰ-2	1後	1			○								兼1
		イタリア語Ⅰ	1前	2			○								兼1
		イタリア語Ⅱ-1	2前	1			○								兼1
		イタリア語Ⅱ-2	2後	1			○								兼1
		イタリア語Ⅱ	1後	2			○								兼1
		イタリア語Ⅲ-1	3前	1			○								兼1
		イタリア語Ⅲ-2	3後	1			○								兼1
		小計（40科目）	—	0	50	0		—		0	0	0	0	0	0
全学共通教養科目	ウェルネス科目	基礎トレーニング	1前	1			○			1					
		スポーツと健康の科学	2後	2		○				1					
		スポーツ実技Ⅰ-1	1後	1			○			1					
		スポーツ実技Ⅰ-2	2前	1			○			1					
		スポーツ実技Ⅰ-3	2後	1			○			1					
		スポーツ実技Ⅰ-4	3前	1			○			1					
		スポーツ実技Ⅰ-5	3後	1			○			1					
		スポーツ実技Ⅰ-6	4前	1			○			1					
		スポーツ実技Ⅰ-7	4後	1			○			1					
		スポーツ実技Ⅱ-1	1後	1			○								兼1
		スポーツ実技Ⅱ-2	2前	1			○								兼1
		スポーツ実技Ⅱ-3	2後	1			○								兼1
		スポーツ実技Ⅱ-4	3前	1			○								兼1
		スポーツ実技Ⅱ-5	3後	1			○								兼1
		スポーツ実技Ⅱ-6	4前	1			○								兼1
		スポーツ実技Ⅱ-7	4後	1			○								兼1
小計（16科目）	—	0	17	0		—		0	1	0	0	0	0	兼1	
科目演習		教養演習Ⅰ	1後	2			○								兼1
		教養演習Ⅱ	2前	2			○								兼1
		小計（2科目）	—	0	4	0		—		0	0	0	0	0	兼1
栄養教諭2種免許状に関する科目 《卒業要件に含まず》		教職論	1後		2	○									兼1
		教育基礎論Ⅱ	2前		2	○									兼1
		教育心理学Ⅱ	2前		2	○									兼1
		教育社会学	3後		2	○									兼1
		人権教育	3前		2	○									兼1
		教育行政学	1後		2	○									兼1
		教育課程総論	3前		2	○									兼1
		道徳教育の研究	3後		2	○									兼1
		特別活動論	3後		2	○									兼1
		学習過程指導論	3後		2	○									兼1
		生徒指導論	3前		2	○									兼1
		教育相談	3後		2	○									兼1
		教職総合演習	3後		2			○							兼1
		栄養教育実習 事前事後指導含む	4前		2				○						兼2
小計（14科目）	—	0	0	28		—		0	0	0	0	0	0	兼11	

別記様式第2号（その2）

教育課程等の概要

（健康福祉学部健康スポーツ栄養学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
栄養士関連科目 学科専門科目	社会生活と健康 公衆衛生学	3後	2			○									兼1	
	社会福祉論	4前	2			○									兼1	
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0		兼2	
	人体の構造と機能	解剖生理学	1後	2			○			1						
		解剖生理学実験	2前	1					○	2				1		
		運動生理学Ⅰ	1前	2			○			1						
		スポーツ医学	2後	2			○			1						
		臨床医学概論	2前	2			○			1						
		生化学	1前	2			○									兼1
		生化学実験	2後	1					○					1		兼1
	小計（7科目）	—	12	0	0	—			2	0	0	0	1		兼2	
	食品と衛生	食品学総論	1後	2			○			1						
		食品学実験	2前	1					○	1				1		
		食品加工学（食品微生物学を含む）	4前	2			○			1						
		食品加工学実習	4後	1					○	1				1		
		食品衛生学	1前	2			○			1						
		食品衛生学実験	1後	1					○					1		兼1
	小計（6科目）	—	9	0	0	—			2	0	0	0	1		兼1	
	栄養と健康	栄養学総論	1前	2			○			1	1					
		栄養学実験	3前	1					○					1		
応用栄養学		2前	2			○					1					
応用栄養学実習		2後	1					○			1		1			
スポーツ栄養学Ⅰ		1前	2			○				1						
臨床栄養学概論		3後	2			○									兼1	
臨床栄養学実習		4前	1					○			1		1			
小計（7科目）	—	11	0	0	—			1	1	1	0	1		兼1		
栄養の指導	栄養教育・指導論Ⅰ	1後	2			○			1							
	栄養教育・指導論Ⅱ（カウンセリング論を含む）	2前	2			○			1							
	栄養教育・指導論実習	2後	1					○	1				1			
	公衆栄養学概論	2後	2			○									兼1	
	公衆栄養学実習	3後	1					○					1		兼1	
	小計（5科目）	—	8	0	0	—			1	0	0	0	1		兼1	
給食の運営	給食計画・実務論	2前	2			○									兼1	
	給食運営管理実習	2後	1					○			1		1			
	調理科学	1前	2			○					1					
	基礎調理学実習	1前	1					○			1		1			
	応用調理学実習Ⅰ	2前	1					○			1		1			
	応用調理学実習Ⅱ	4後	1					○			1		1			
	給食管理実習Ⅰ（校外）	3通	1					○			1		1			
	小計（7科目）	—	9	0	0	—			0	0	3	0	1		兼1	
スポーツ栄養関連科目	運動生理学Ⅱ（環境生理学を含む）	1後		2		○			1							
	運動生理学実習	3前		1				○	1				1			
	スポーツ栄養学Ⅱ	2後		2		○				1						
	スポーツ栄養指導実習	3後		1				○	1	1			1			
	スポーツ栄養クッキング	3前		1				○		1			1			
	スポーツ栄養情報処理演習	3前		1				○		1						
	小計（6科目）	—	0	8	0	—			1	1	0	0	1		0	

別記様式第2号（その2）

教育課程等の概要

（健康福祉学部健康スポーツ栄養学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
健康・福祉関連科目	生活習慣病と食生活	2後		2		○			1						
	世界の食生活と健康	2後		2		○			1						
	国際栄養論	1後		2		○			1						
	健康福祉論（ライフサイクルとQOLを含む）	2後		2		○				1					
	社会福祉援助技術	4前		1			○								兼1
	健康食育論	2前		2		○			1						
	小計（6科目）	—	0	11	0	—	—	—	3	1	0	0	0	0	兼1
健康運動実践指導関連科目	健康管理概論（倫理学を含む）	1前		2		○			1						
	生涯スポーツ科学（スポーツ心理学を含む）	1後		2		○			1						
	運動プログラム論	1後		2		○			1						
	身体運動実習Ⅰ（エアロビックス）	2前		1				○		1					
	身体運動実習Ⅱ（ジョギング・ウォーキング）	2後		1				○		1					
	身体運動実習Ⅲ（スイミング&ウォータースポーツ）	3前		1				○		1					
	健康体力評価論（含実習）	3前		1				○		1					
	応急手当実習	2後		1				○		2					
	機能運動論	2後		2		○			1						
	理学療法論	3前		2		○			1						
	障害者とスポーツ	4後		2		○			1						
小計（11科目）	—	0	17	0	—	—	—	2	1	0	0	0	0	0	---
ライフサイエンス関連科目	食料経済（食品流通を含む）	4前		2		○									兼1
	食生活論	3後		2		○					1				兼1
	消費生活科学（食品商品学を含む）	4前		2		○									兼1
	栄養機能食品論	2後		2		○			1	1					
	栄養情報処理演習	3前		1			○								兼1
小計（5科目）	—	0	9	0	—	—	—	1	1	1	0	0	0	兼3	---
資格関連科目	給食管理実習Ⅱ（校外）	4前		1				○							
	学校栄養教育論	3後		2		○					1				兼3
	フードスペシャリスト論	3後		2		○					1				兼1
	フードコーディネーター論	4前		2		○									兼1
	食環境論演習	4後		1			○								兼1
	NR（栄養情報担当者）論	4前		2		○									兼1
小計（6科目）	—	0	10	0	—	—	—	0	0	1	0	0	0	兼5	---
その他	基礎演習Ⅰ	1前	1					○	2	2	1				
	基礎演習Ⅱ	1後	1					○	2	2	1				
	専門演習Ⅰ	3前	1					○	5	2	3				
	専門演習Ⅱ	3後	1					○	5	2	3				
	卒業論文	4通	8					○	5	2	3				
	小計（5科目）	—	12	0	0	—	—	—	5	2	3	0	0	0	0
合計（207科目）			—	65	238	28	—	—	6	2	3	0	3	兼91	---
学位又は称号		学士（栄養学）		学位又は学科の分野				家政関係・体育関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
卒業要件・全学共通教養科目24単位以上、専門科目76単位以上、全学共通教養科目又は専門科目24単位以上 卒業要件単位合計124単位以上 履修科目の登録の上限：58単位（年間）							1学年の学期区分		2期						
							1学期の授業期間		15週						
							1時限の授業時間		90分						

健康福祉学部健康スポーツ栄養学科の設置について

I. 設置の趣旨

1. 神戸女子大学の沿革と現状

神戸女子大学を設置経営する行吉学園は、「世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする有為な女性の育成」を建学理念として、昭和 15 年に「神戸新装女学院」として創立された。その後、昭和 25 年に「神戸女子短期大学」、昭和 41 年に「神戸女子大学」、昭和 59 年には「神戸女子大学大学院」を設置し、現在に至っている。

神戸女子大学は開学以来、基本的に人間生活に関連する課題を探求し、社会に対し広い視野と深い洞察力を身につけた心情豊かな女性を育てることを教育的使命として、逐次、時代変遷に応じた教育の整備と充実を図りながら、多くの有為な人材を社会に送り出している。

神戸女子大学は現在、文学部 5 学科、家政学部 1 学科・1 課程、健康福祉学部 1 学科および大学院 2 研究科から構成されている。また、大学の機能を教育・研究・地域貢献と捉え「学生が求める大学」、「時代が求める大学」、「地域が求める大学」をスローガンに、自立心、対話力、創造性を培う教育を目指している。

2. 健康福祉学部の理念

健康福祉学部は健康と福祉という二つの要素を統合した理論的・実践的能力を備えた有為な人材の育成を目指している。加速する高齢化社会の中で福祉へのニーズは高まり、介護サービスはもちろんのこと、病院におけるチーム医療の一員としての福祉専門職や教育機関での福祉教育など、子どもから高齢者・障害者まで福祉ニーズは社会のあらゆるシーンに広がっている。健康福祉学部はそうした新しい時代の社会ニーズに応えるために健康と福祉を有機的に連携させ、ただ生きるのではなく、より健康で生き生きとした暮らしを手に入れるための人間関係の仕組み・在り方を科学的に追究する学部であり、健康福祉問題を的確に捉え解決しうる実践的応用能力を身に付けた健康・福祉の専門家養成を目指している。

3. 健康福祉学部における健康スポーツ栄養学科設置の必要性

健康福祉学部は、平成 18 年に健康福祉学科の 1 学科体制で設置され、多様化する現代社会に柔軟に対応しうる能力と豊かな人間性を備え、地域社会における福祉活動をリードする福祉専門職の養成をベースに、長寿社会に対応した介護予防・健康づくりといった人類の健康の追及にも貢献できる人材を養成してきた。

しかしながら、少子高齢化の進展に伴い、福祉・介護ニーズが、ますます拡大するとともに、その多様化・高度化が急速に進む状況にあり、その対応として、国外からの（准）介護福祉士受入れ、「社会福祉士及び介護福祉士法」の改正等が実施されることとなった。

一方で、健康面においても、生活習慣病の増加や医療費の高騰を背景に、「新健康フロンティア戦略」や「21 世紀における国民健康づくり運動」など、健康国家の創造に向けた施

策が実施されるようになり、それを実践できる高い専門性をもった人材の養成が求められるようになった。

かかる状況下、多様化・高度化する福祉問題と健康問題に対応できる専門職の養成のためには、従来の健康福祉学科の1学科では全てを網羅できなくなるとの判断から、健康福祉学科（平成21年度より社会福祉学科に名称変更予定）において、福祉・介護分野の教育を重点的に行い、一方で健康分野の追求のために、新学科を設置する必要があるとの方針に至った。

新学科については、健康を追求するにあたり、健康を構成する主要な要素である運動・スポーツと栄養に着目し、本学において40年の学問蓄積のある栄養教育をベースに、運動・スポーツの科学的、且つ実践的学習を加え、運動と栄養の両面から我が国の健康を支える人材の輩出を目指す「健康スポーツ栄養学科」を設置することとした。

4. 健康スポーツ栄養学科の目的

健康福祉学部は、国際化、高齢化、少子化、情報化の時代に対応した地域振興の視点から、地域社会における福祉活動をリードする社会福祉の専門家の養成を行うとともに、個人が生活習慣病の予防を考慮するなど高齢化社会における健康寿命を延ばし、QOLの向上を目指して自主的に健康な心身と生活を管理し、疾病を予防していくことも重要な課題と捉えている。疾病・介護予防や心身の健康づくりには適切な栄養と運動のバランスが重要であり、どちらかが欠けてもその目的を達成することはできない。栄養と運動の両面の知識と指導できる技術を持ち合わせ、将来にわたって健康を思考し続ける専門的な人材の養成は急務であり、健康スポーツ栄養学科は栄養と運動が連携するフレキシブルな教育研究活動の拠点としての役割を担うこととなる。

平成13年の食の安全問題に端を発し、国民の健康・栄養・食に求める価値観の変化は著しく、一方、健康増進法、食品安全基本法、食育基本法等の栄養推進業務に関する法規制が相次いだ。健康づくりのための新しい運動指針に対応した体力づくりのための栄養・運動指導、疾病や障害予防のための栄養管理、介護分野での栄養マネジメント、食料資源と環境対策、需要増の中食外食等の食品産業などへの栄養指導、少子高齢化社会への栄養指導等、社会情勢の変化・動向によって栄養職に求められる栄養指導への役割が増加してきている。特に高齢社会では、寝たきり老人等の予防や介護の領域が大幅に増大するなか、福祉の専門分野の知識や経験を修得した栄養職による栄養指導も必要となってきている。また、少子化においては、子どもの健全な食生活指導のために、栄養職による食育指導が強く求められる。2005年6月には「食育基本法」が制定され、これまでの教育内容に加えて食育関連の内容を充実させる必要が生まれてきた。即ち、高齢化社会において、国民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むために、自己の健康管理能力を養えるよう子どものときから「食育」という概念を導入した教育をスタートさせることは大きな意義を持ち、それを取り巻く社会環境において栄養士や栄養教諭の役割は重要となってきている。国民が進める食育実践内容として、家庭における保護者やそれをうけて学校、保育所、食品関連事業者等もまた食育を実践する担い手として期待され、各々の役割や取組の在り方に注目が集まっている。現在では食品安全についても国民の関心は高く、摂取する食品がからだに及ぼす影

響についても正しい情報の提供と知識をもつ栄養職が必要である。

以上のような栄養職の活動は国民が健康で暮せる期間の延長や生活の質の向上に寄与するものであるが、その活動範囲については未だ開拓の余地が多く残されているのが現状である。健康スポーツ栄養学科ではスポーツの場での栄養の役割にも着目している。地球温暖化のなか、夏季の高温環境下での運動・スポーツの実施については、安全性の確保やパフォーマンスの向上を目的とした栄養学的知識が不可欠であるが、いまだその集積は少ない。熱中症での事故が報告されるなかでの水分摂取の在り方や、スポーツパフォーマンスに及ぼす食事・栄養摂取の知識など、栄養と運動の関わりを追求したい。

さらに、本格的な少子高齢社会を迎えて、「少子高齢化に対応した地域における新しい文化・福祉の発展と創造の拠点としての役割」を設置趣旨とし、「高齢者のADL(日常生活動作)体力アップ講座」や「介護予防と介護教室」を地域連携の一環として開催している健康福祉学部において、福祉・介護の知識・技能や身体機能・リハビリテーションの知識をも修得し、健全な子どもの育成や質の高い長寿社会の創造の役割を担う少子高齢化社会に対応した健康寿命の維持・延長を志向した教育、併せて、子供期からの食育を理解し、生活習慣病の予防に着手できる栄養指導とともに運動指針に基づいた健康づくりのための運動の科学的理解と指導ができる人材養成を目指し、本学独自の栄養と運動を結びつけた特徴ある教育を展開する。

卒業後の進路については、様々な食の外注化に伴い年々求人件数が増えている委託給食会社をはじめ、食育を実践して保育所、福祉との関わりを理解して社会福祉施設、運動指導と栄養指導の組み合わせを活かして健康増進施設・地方公共団体などを想定している。中でも委託給食会社は、業容の拡大から深刻な人材不足が叫ばれており、また、健康増進産業は健康づくりという国家的ニーズから発展が期待されており、学生の就職先は十分見込める状況にあると考える。

II. 学部、学科等の特色

健康スポーツ栄養学科は、運動・スポーツと栄養の関わりを追求する学科であり、そこから生じる幅広い就職対象業種に対応する職業人養成や、運動・栄養の結合という専門的分野の教育・研究機能を重点的に担うこととなる。

特に職業人養成については、栄養職・健康職の活動分野の拡がりと、その役割が期待されていることに鑑み、社会の要請に沿った人材の育成を特徴とする。

1. 健康増進や疾病・障害予防、スポーツ現場における栄養・運動実践教育の充実
 - ・健康づくりのための運動指針に基づく栄養指導。
 - ・疾病や障害予防、特に生活習慣病予防のための栄養、運動指導。
 - ・競技スポーツを実践する選手や指導者のための栄養、運動指導。
 - ・福祉施設での要介護者等を対象とした栄養、及びリハビリを理解した運動指導。
2. 福祉施設における給食管理教育の充実

福祉施設における給食施設は、社会福祉施設、介護保険施設等多種設置され、各施設に

栄養職の配置規定がみられる。栄養、衛生、安全、作業管理等、給食業務において実務能力を備えるとともに福祉の知識、介護の実践等を修得させ、栄養教育を充実させる。

- ・ 保育所等福祉施設で求められる食育教育を充実。
- ・ 給食内容の向上と充実を図り、安全でおいしい給食管理ができるよう給食実習（校外）を充実させ、実務教育を徹底。

3. 食行動変容を目指した栄養教育の充実

食環境の変化に迅速に対応できる栄養職の育成。

- ・ 広範囲な食育推進教育に対応。
- ・ メタボリックシンドロームに代表される生活習慣病予防に対応。
- ・ 他職種協働に際しての機能発揮。

4. 新たな方向性を拓く教育内容の構築

運動・スポーツを実践する場において、健康づくりから競技スポーツに至るまで、種目別に目的に応じた調査・研究、教育内容の構築を行う。また、運動と栄養を理解した健康職の養成を行い、海外事情を理解し国際的にも活躍できる人材養成を実施する。

III. 学科の名称及び学位の名称

高齢化社会の進展の中で、いまや国家的課題ともいえる国民の健康づくりのためには、栄養と運動の両面から健康にアプローチできる人材が不可欠になる。本学伝統の栄養教育をベースに、運動・スポーツの領域を付加し、健康を多面的に捉える人物を養成するという理念を直接的に表現するため、健康スポーツ栄養学科という名称を採用する。

専攻分野の名称については、栄養教育がベースであることから栄養学とする。

英訳名は、日本語名と同じく理念を直接的に表現するため、Department of Health, Sports and Nutrition とする。

IV. 教育課程の編成の考え方及び特色

健康増進施設における栄養・運動実践教育、福祉施設における給食管理教育、食行動変容を目指した栄養教育、運動と栄養の連携により新たな方向性を拓く教育など、活動分野の拡がりに対応できる教育内容を構築し充実するために、以下のようなカリキュラムによる人材育成を行う。

1. カリキュラムの構成

ベースとなる栄養教育に加えて、総合的に健康を追究し社会で多方面に活躍できるよう幅広く科目を設定、その中で目指すべき方向や資格にあわせて効率よく授業を履修できるよう2つのコース（健康栄養コース及びスポーツ栄養コース）を設定する。

健康栄養コースは、栄養学をベースに、さらに食生活や栄養補助食品、食環境など食に関する深い知識を運動やリハビリとの関連性を意識しながら習得し、食と健康の関係を追及する。

スポーツ栄養コースは、栄養学をベースに、身体・運動理論から運動実践までを学び、それらを有機的に結びつけた健康管理やスポーツ栄養学を身に付ける。

これら2つのコースを運営していくため、それぞれのコースが履修しやすいよう科目群を構成するが、一方で学生の幅広いニーズにも応えられるようコース（専攻分野）による履修制限等は実施せず、希望者はどの科目群からも授業を履修できるようにしている。

2. カリキュラムの特色

専門科目群を、栄養全般を網羅する「栄養士関連科目」、スポーツ栄養学を修得する「スポーツ栄養関連科目」、運動指針に基づいた健康づくりや身体機能・リハビリを学ぶ「健康運動実践指導関連科目」、食を幅広く捉える「ライフサイエンス関連科目」、健康と福祉の関連を理解し国際的な健康を考える「健康・福祉関連科目」、食の専門性を身に付ける「資格関連科目」等に分類し、栄養学をベースに学習したい分野を幅広く選択できるように考慮している。

必修・選択の別は、ベースとなる「栄養士関連科目」及び1・3・4回生で実施するゼミ（基礎演習・専門演習・卒業論文）を必修科目とし、それ以外の科目群は、幅広く学習できるよう選択科目としているが、健康栄養コースは主に「ライフサイエンス関連科目」、「健康・福祉関連科目」、及び「資格関連科目」から、スポーツ栄養コースは主に「健康運動実践指導関連科目」及び「スポーツ栄養関連科目」から履修するよう、それぞれのコースの中で選択必修科目を設けている。

配当年次については、低学年から「栄養士関連科目」を基礎として学べるよう配置し、上級生で自分の学習したい分野の科目を発展的に履修できるよう設定している。

教養科目については、「一般講義科目」、「情報科目」、広いテーマの下にオムニバス等で実施される「総合科目」、「語学科目」、「ウェルネス科目」、ゼミ形式で学ぶ「演習科目」等を設定し、広く豊かな教養が身に付くよう構成している。

V. 教員組織の編成の考え方及び特色

栄養をベースに運動・スポーツを付加して健康を追求するという理念に合わせ、栄養関係の教員を中心に、体育関係の専任教員も複数配置し、全体としてバランスよい教員配置を実施した。

特に、必修科目であり基本となる栄養士関連科目に対しては、専任教員11名のうち9名が担当し、大半を専任教員で賄う体制とした。また、9名のうち4名は博士学位の取得者を配置し、基幹科目として適切な運営ができるよう配慮した。

専任教員の年齢構成については、研究業績に優れる教授から機敏に活動できる講師まで、偏ることのないよう配置した。

VI. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

栄養及び運動の理解を進めるためには、その性格上、理論だけの教育だけでは不十分であり、演習・実習系の授業を相当数配置している。これらの教育効果を高めるために、入学定員 60 名に対し、演習・実習系の必修科目は 2 クラスを設置する。このため、1 クラス 30 人の体制となり、効果的な授業が実施できる。

また、科目の配当年次については、栄養関係の校外実習を 3 回生に設定しているため、学外実習に必要な内容の講義・演習は 2 回生までに修得できるよう配当を行い、発展的内容の科目については 3 回生からの開講としている。

卒業要件については、教養科目 24 単位、専門科目 76 単位、教養科目又は専門科目 24 単位、合計 124 単位とし、社会で幅広く活躍できるよう教養科目と専門科目のバランスを考慮している。

履修モデルは、添付資料 1 のとおりであるが、健康栄養コースは、「教養科目」30 単位程度、「栄養士関連科目」53 単位、「健康運動実践指導関連科目」4 単位程度、「ライフサイエンス関連科目」8 単位程度、「健康・福祉関連科目」8 単位程度、「資格関連科目」9 単位程度、「その他（ゼミ・卒論）」12 単位、合計 124 単位を想定している。スポーツ栄養コースは、「教養科目」28 単位程度、「栄養士関連科目」53 単位、「スポーツ栄養関連科目」8 単位程度、「健康運動実践指導関連科目」14 単位程度、「ライフサイエンス関連科目」4 単位程度、「健康・福祉関連科目」5 単位程度、「その他（ゼミ・卒論）」12 単位、合計 124 単位を想定している。

履修科目の年間登録の上限は、各学年間のバランスよい履修と幅広い科目の積極的履修の調整を図り 58 単位とする。

他大学の科目履修については、現在この学科を設置するポートアイランドにおいて神戸女子大学・神戸女子短期大学・神戸学院大学・兵庫医療大学・神戸夙川学院大学の間で単位互換に向けて協議が行われているところであり、学生への幅広い教育機会の提供という観点から可能な限り積極的に実施したいと考えている。ただし、実現に際しては、本学学生の教育効果が落ちるような多数の学生の受け入れは実施しない方針である。

VII. 施設、設備等の整備計画

健康スポーツ栄養学科の校地は、健康福祉学部健康福祉学科の定員を削減して設置することから、同学科のあるポートアイランドキャンパスとなる。運動場は 12,000 m²確保している。

校舎についても、原則として健康福祉学科の定員減により既存の校舎施設・設備の使用となる。既存校舎には調理実習室も整備されており授業用の教室等は問題ないが、教員用の実験室や体力評価室、トレーニングルーム等は教室の改装を行い整備する。教室等の利用計画は添付の時間割（資料 2）のとおりであり、施設・設備面での支障はない。

図書については、食・栄養関係で 20,000 冊、運動・福祉関係で 4,000 冊以上がすでに整備されており、学術雑誌についても「The Journal of Nutrition」、「日本生理学雑誌」をはじめ 59 種類が用意されている。今後はさらに必要な領域を見極めながら徐々に増やして

いく計画である。電子ジャーナルについては、既に導入している「Nature」等の利用状況を確認しながら整備を進めていく。図書館の閲覧座席数は180席確保し、端末の利用でスムーズな図書検索も可能となっており、健康スポーツ栄養学科の教育・研究を支えられる体制を整備している。

VIII. 入学者選抜の概要

栄養と運動の両面から健康を迫及できる人材の養成を目指し、食への関心が高く、体の仕組みを理解し、運動と栄養を結びつけて健康を追求するための広い視野と確かな意欲を持つ学生を受入れる。

そのために、学力を問う一般入試の他に、調査書と学力試験を組み合わせた推薦入試、書類審査と面接によるアドミッション・オフィス入試などを実施し、多様な角度から入学の機会を提供する予定である。

科目等履修生等については、ポर्टアイランドに所在する大学間の単位互換制度を協議しているが、実現した場合でも本学学生の授業効果に影響がでない程度の人数に限り他大学の学生を受入れる方針である。

IX. 取得を目的とする資格

国家資格である栄養士を卒業と同時に取得する。

栄養士実習については、既に定員である60人分の実習先を確保している。実習先との契約内容には、個人情報保護や損害発生時の補償などを盛り込む計画である。実習先には、実習指導者の氏名・資格を明らかにしてもらい、実習指導者と定期的に連絡を取り、実習水準確保のためお互いのニーズ、問題点を把握できる体制とする。実習への取り組み姿勢、心構え、マナー、注意点、及び実習後の反省については、事前・事後指導を実施して徹底を図る計画である。また、実習先ごとに担当教員を決定し、実習時に訪問を実施する。成績評価については、実習先に数項目の評価を依頼し、それをもとに実習ノートの評価を合わせて、学科としての成績評価と単位認定を実施する。

尚、取得は目的としていないが、取得可能な資格は次のとおりである。

資格名	資格の種類	取得要件等
栄養教諭二種免許状	国家資格	学科で開講する栄養教諭科目の履修
管理栄養士国家試験受験資格	国家資格	卒業後、1年間の実務経験が必要
健康運動実践指導者受験資格	民間資格	学科専門科目の履修
実践健康教育士受験資格	民間資格	学科専門科目を履修し、卒業後、1年間の実務経験と講習会参加が必要
フードスペシャリスト受験資格	民間資格	学科専門科目の履修
栄養情報担当者認定試験受験資格	民間資格	学科専門科目の履修

X. 2つ以上の校地において教育を行う場合

ポートアイランドキャンパスでの授業履修を原則とするが、教養科目については、希望すれば、文学部及び家政学部のある須磨キャンパスでの履修も可能としている。また体育館を使用する科目は三宮キャンパスで実施する。須磨キャンパスは希望者のみ・教養科目のみの履修であり、他学科の専任教員も多数在籍していることから、また三宮キャンパスは体育館としての利用であることから、いずれも学生指導上問題のない体制である。須磨キャンパスの科目は希望者が履修するもので、時間割上も問題はない。三宮キャンパスは人工島であるポートアイランドへの出口に位置し、通学上も支障なく、移動も電車・徒歩で20分の距離である。

X I. 管理運営

健康福祉学部教授会は、①教育課程及び授業に関する事項、②研究及び教育に関する事項、③教員の人事に関する事項、④学生の入学、学籍、卒業及び賞罰に関する事項、⑤学生の試験に関する事項、⑥学生の厚生・補導に関する事項、⑦科目等履修生、研究生、委託生及び外国人留学生に関する事項、⑧学部諸規程の制定及び改廃に関する事項、⑨その他学部に関する重要な事項を審議する。学部長、教授、准教授、助教、講師をもって構成され、原則として月1回開催している。

さらに、学則の改定や全学に関する重要な事項は、学長、副学長、教授、准教授、助教、講師をもって構成される全学教授会で審議している。

X II. 自己点検・評価

自己点検については、大学全体で組織的に実施されるよう自己点検・評価運営委員会を設置し、点検・評価作業及び報告書の作成方法等について決定している。また、自己点検・評価運営委員会が円滑に運営されるよう自己点検・評価統括責任者を置き、現在は全学を挙げて自己点検に取り組むため、学長がこの職を兼務している。事務組織については、自己点検評価推進事務室を設置し、自己点検・評価に関する事務を執り行えるよう専任職員を配置している。認証評価については、平成21年度に（財）大学基準協会による評価を受ける予定である。

X III. 情報の提供

学部等の理念、カリキュラムについては「履修の手引き」に、各科目の教育内容・評価基準等については「授業計画書シラバス」に、入試結果については「ホームページ」に、教育・研究成果等については学園広報誌「クロスロード」、刊行雑誌「食物と健康」及び教育後援会「会報」に、それぞれ掲載し公開している。

XIV. 教員の資質の維持向上の方策

教育内容・方法及び研究環境の整備のために設置されている教育研究部において、FD (Faculty Development) 委員会を組織している。この委員会は、教員の能力開発に関する事項のとりまとめを行い、教授能力開発に関わる企画・運営方法を決定している。具体的には、毎期実施している授業アンケートの集計と授業改善に向けた結果の還元、公開授業・研究授業の実施、及びFD研修会（平成19年度は9月21日実施：テーマ「大学教育改革を支援するFD活動の課題」）・FDシンポジウム（平成19年11月29日実施：テーマ「授業アンケートの改革」）の実施等である。

XV. 定員の移動

健康スポーツ栄養学科の設置に際しては、以下のとおり健康福祉学部健康福祉学科（社会福祉学科へ名称変更予定）の定員減及び文学部英語英米文学科の定員増を同時に実施する。この結果、大学全体では定員の変更は生じない。

(単位：人)

学部学科	現状		変更後（完成年度）		増減	
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
健康福祉学部健康スポーツ栄養学科	—	—	60	240	60	240
健康福祉学部健康福祉学科	160	640	80	320	▲80	▲320
文学部英語英米文学科	40	160	60	240	20	80
計	200	800	200	800	0	0